

令和2年(2020) 12月19日 長野日報

## 吃音について 理解深める

城北小4年生

諏訪市城北小学校4年生21人は17日、滑らかに言葉が出ない吃音について学んだ。言語聴覚士の内藤麻子さん(51)は「松本市から特徴や接し方について教わり、理解を深めた。

授業は、吃音のある児童の母親が、クラスメートに吃音のことを知つて受け止められないないと考え、担任に提案した。

内藤さんは、

吃音の人は100人に1人の割合でいて、話す際に言葉が連続したり、音が伸びたりするの緊張ではなく、「その人の持つて生まれた話し方」と説明。吃音で悩む児童の思いも映像で紹介し、「話し方ではなく、話す内容をよく聞いてあげてほしい」と呼び掛けた。児童たちは「話し方についてあってほしい」と呼び掛けた。児童たちはグループで当事



吃音についてグループで話し合う城北小の児童

者の気持ちを話し合い、せかさず自然に接することの大切さを学んだ。

吃音のある児童は作文を読み上げ、「私のことを知らない人には、自分でも言つけれど、教えてあげてください。吃音を知る人が多くなってうれしいです」と打ち明けた。授業を終え、藤森七海さん(9)は「そういう人がいるのは知つていたけれど、吃音という言葉は知らなかつた。一緒に話す時には気を配つてあげたい」と話していた。

(飛矢崎貴規)